

2月定例記者会見の概要

- 1 日時 令和5年2月6日(月)10時00分～11時00分
- 2 場所 本庁舎3階 第一会議室
- 3 出席者 <報道機関>
 - ① 河北新報社 南相馬通信部 (南相馬記者クラブ会員)
 - ② 読売新聞社 南相馬通信部 (南相馬記者クラブ会員)
 - ③ 福島民友新聞社 相双支社 (南相馬記者クラブ会員)
 - ④ 福島民報社 南相馬支社 (南相馬記者クラブ会員)

計 4 社

< 市側 >

・市長・総務部長

(テレビ会議)

- ・新田副市長・常木副市長・小高区役所長・鹿島区役所長
- ・復興企画部長・復興企画部政策担当理事
- ・市民生活部長・健康福祉部長
- ・健康福祉部新型コロナ対策担当理事・こども未来部長
- ・経済部農林水産担当理事・経済部企業支援担当理事
- ・建設部長・総合病院事務部長・教育委員会事務局長
- ・観光交流課長

計 17 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

皆さん、お集まりいただき誠にありがとうございます。

はじめに1月5日の記者会見から最近までの出来事について報告いたします。

まず、寒波の到来についてです。

1月24日から、低温注意報が発令され、市内で1,000箇所を超える水道管の凍結による漏水が発生しました。漏水量の増加に伴い、配水池の貯水量が低下したため、原町区では1月27日11時から2月1日9時まで、約50%程度の給水制限を行い、水が出なくなった方のため給水バッグによる水の配付を実施しました。

漏水箇所の修繕などに迅速に当たっていただきました南相馬市管工事協同組合等の市内工事事業者様、節水にご協力いただきました市民の皆様に、改めて感謝申し上げます。

引き続き、寒い日が続くことが予想されます、今後に備えて、水道管凍結防止などの取り組みにご協力をお願いいたします。

次に、二十歳を祝う会についてです。

1月8日に「二十歳を祝う会」を市民文化会館「ゆめはっと」で開催いたしました。

二十歳を迎えた運営委員8名の皆様が式典の準備などに取り組み、365名の皆様にご出席いただきました。

次に、空き家と住まいの相談窓口についてです。

1月10日に開設した、空き家と住まいの相談窓口の愛称を「ミライエ」に決定いたしました。

隣接する移住相談窓口「よりみち」と連携を図りながら、空き家活用の促進や住まい確保の支援に向け、相談対応や情報発信などに取り組んでまいります。

次に、要望書の提出についてです。

1月12日に、渡辺復興大臣へ要望書を手交し、第2期復興・創生期間における住民の生活再建、産業基盤再生に向けた継続的な支援などについて要望いたしました。

1月19日には、東京電力ホールディングス株式会社本社へも要求書を提出し、市内各区域における不合理な賠償格差を是正するよう、中間指針などの区域割を絶対とせず、同等の被害実態が存在する場合は同等の賠償を実施すること、廃炉作業における事故・トラブル防止の徹底などを要求いたしました。

また、同日、原子力損害賠償紛争審査会へ要望書を手交し、過日公表された中間指針の改定を踏まえ、市内各区域における不合理な賠償格差の是正などを要望いたしました。

加えて、2月1日には、自民党及び公明党の東日本大震災復興加速化本部や復興庁などを訪れ、要望書を手交しました。原子力災害からの復興はまだ始まったばかりであり、旧避難指示区域である小高区の復興は、これから本格的なステージを迎えます。こうした市を取り巻く状況を踏まえて、復興関連支援事業の実施に向けた中長期にわたる確実な財源確保、第2期復興・創生期間の終了以降も従来の制度を維持し、支援を継続することなどを要望いたしました。

今後も復興に向けた各種課題の解消に向け、国や関係機関へ積極的に市の意向を伝えてまいります。

次に、第三次総合計画の策定についてです。

令和5年度からスタートする「南相馬市第三次総合計画」の策定に向け、現在「南相馬市第三次総合計画基本計画（素案）」に係るパブリックコメント手続や市民説明会、若者団体との意見交換会などを通じて市民の皆様からお寄せいただいた意見を整理しているところです。今後、「南相馬市第三次総合計画基本計画（案）」を取りまとめ、2月22日開催の南相馬市総合計画審議会に諮問を行う予定です。

また、第三次総合計画を着実に遂行できる令和5年度の組織体制や事務分担の案については、1月24日開催の行政改革審議会に諮問し、原案のとおり答申をいただいたところです。

続いて、今後の主な話題について触れたいと思います。

まず、サミットの開催についてです。

2月14日に、福島ロボットテストフィールドで「第2回浜通り連携協定サミット in 南相馬市」が開催されます。サミットを主催する日産自動車株式会社様と本市は、令和2年度に連携協定を結んでおり、当日は、電気自動車の実装による再生可能エネルギーの有効活用に向けた新たな取り組みを発表させていただく予定です。

加えて、小高区で酒蔵を営む「haccoba」の佐藤みずき様による講演なども行われる予定です。

次に、生涯学習講演会の開催についてです。

2月26日に鹿島生涯学習センターで、防災をテーマとした講演会を開催いたします。防災士の資格を持ち、気象予報士としてテレビ番組でも活躍中の木原実氏を講師にお招きし、防災について親子で学べる講演会です。家族で防災について考える機会としてご活用ください。

次に、サンサンチャレンジについてです。

3月1日から、本市の健康課題であるメタボリックシンドロームの解消に向けて、3か月で3キログラムの減量を目指す「サンサンチャレンジ2023春」を実施いたします。

昨年は937名の方に参加申し込みをいただき、103名の方が、目標を達成されました。

参加登録は既に開始していますが、2月19日に市内商業施設にブースを設け、出張案内と受付を行います。ぜひ多くの皆様にご参加いただきますようお願いいたします。

【質疑応答】

質問1：

寒波の影響により漏水箇所が1,000箇所を超えたとのことですが、過去に同規模の被害が発生したことはあったのでしょうか。

回答1：市長

私の任期中に、これほどの被害が発生したことはありませんでした。

この度の寒波では、空き家の漏水も多数発生しました。職員が各戸をまわってメーターの確認を行いました。空き家だとすぐに漏水を発見することができません。そういったことも、今回の被害につながったと思われます。

回答1：建設部長

給水管の漏水が原町区で1,030件、小高区で90件、鹿島区で90件発生、牛越及び大谷浄水場の貯水率が約3割から4割に低下したため、給水制限などを行いました。

恐らく過去に、寒波によってこれほどの漏水が発生したことはなかったと思われませんが、調査し改めて回答させていただきます。

質問 2 :

浜通り連携協定サミットについて、詳細を教えてください。
連携協定とは日産と締結した協定なのでしょうか。

回答 2 : 復興企画部長

サミットでは連携協定に基づく成果報告が行われるほか、今後、鹿島区で行われる新たな取り組みについて発表します。その後、南相馬市長による連携協定の更新宣言などを行う予定です。

連携協定は、令和 2 年度に浪江町、双葉町、南相馬市、日産自動車株式会社、フォーアールエナジー株式会社、福島日産自動車株式会社、日産プリンス福島販売株式会社、イオン東北株式会社、日本郵便株式会社東北支社、株式会社長大、株式会社センリンの 11 団体と締結されました。

回答 2 : 市長

協定に基づき、第 1 回のサミットが浪江町で開催され、2 回目となる今回は南相馬市での開催となります。各団体が 2 年間の成果と今後の取り組みについて発表いたします。浪江町では日産自動車様を中心に新たな配車サービスを利用した巡回バスの運用などを実施しており、今後、南相馬市では電気自動車を利用した非常時の電源確保などに取り組む予定です。

質問 3 :

寒波による被害について、市は漏水の修繕費用を負担したのでしょうか。
加えて、今回のような被害の要因とどのような対策が必要とお考えかを教えてください。

回答 3 : 市長

気温が下がると自動的に水が出る蛇口の使用や止水栓を閉めて水抜きをするなどの対策を事前に行えば、凍結を防げたのだと思います。とはいえ、完璧に対策を行うのは難しいと考えています。市ではメールの配信など事前の広報に努めましたが、しばらくぶりの寒波ということあり、十分な対応できなかったケースも多く、空き家の漏水も多数発生しました。加えて、本市の水源は浅井戸が多く、雨が少ない冬は元々水位が低いことが給水制限につながったと捉えております。

引き続き市民の皆様には、気温が低下する前に、水道管の凍結防止対策の実施などを周知してまいります。

さらに、渇水への対策を今後の課題として、新たな水源の確保、相馬広域水道との連携などを検討してまいります。

なお、修繕費用につきましては、これまで同様、給水管を所有されている個人の皆様にご負担いただく形となります。

質問 4 :

市長の健康状態について、市民の皆様も心配されていると思いますので、お話しできる範囲で教えてください。

回答 4 : 市長

本日から一週間入院いたします。本来であれば、その間に出席させていただく会議などもございますが、ご理解いただければと思います。定期健診で早期に診断を

受けましたので、来週には仕事に復帰する予定です。しばらくの間ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願ひ申し上げます。

市の定期健診の受診率は低い状況ですが、健康診断は大切です。多くの方に受診いただけるよう、なお一層周知に努めてまいります。

以上